

国土審議会北海道開発分科会第1回計画推進部会 議事概要

- 1 日時：平成28年12月14日（水）13:00～15:00
- 2 場所：コンベンションルーム AP 新橋虎ノ門1 1階 A ルーム
- 3 出席者：〔委員〕 高橋部会長、五十嵐委員、石田委員、片石委員、小磯委員、佐藤委員、田村委員、長谷山委員、林委員、矢ヶ崎委員、山田委員、山谷委員（代理：近藤北海道東京事務所副所長）
〔国土交通省〕 田中国土交通副大臣、田村北海道局長、桜田大臣官房審議官、
対馬大臣官房審議官 ほか

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) 委員紹介
- (3) 国土交通省挨拶
- (4) 部会長互選
- (5) 部会長挨拶
- (6) 部会長代理の指名
- (7) 議事
 - ① 北海道総合開発計画の推進について
 - ② その他
- (7) 閉会

5 議事及び主な発言内容

- (1) 部会長の互選について
互選により、高橋委員が部会長に選出された。
また、高橋部会長から、部会長代理として中嶋委員が指名された。
- (2) 北海道総合開発計画の推進について
資料3について事務局から説明し、「推進に当たっての具体的な目標」、「目標実現のための課題の抽出・共有」、「計画の進行管理」について意見交換が行われた。

【委員からの主な意見】

《推進に当たっての具体的な目標》

- ・ 数値目標は概ね妥当と思う。
- ・ 来道外国人旅行者数500万人という目標達成には、地方部にもう少し宿泊してもらわないといけないのではないか。外国人宿泊客延数の地方部割合（地域平準）36%の目標との整合性を、計画を進めながらチェックしていくべき。
- ・ 「世界水準の観光地」というのは良い言葉を掲げてもらったと思う。ただ、何がどうなれば世界水準だと言えるのか考えなくてはいけない。

- ・農業については、大規模化と同時に、多様な農業をきちんと守っていくというために、アグリビジネスの強化というのが非常に重要だと思う。数値目標に表れるような工夫をして欲しい。
- ・地域づくり人材の発掘・育成の数値目標として、「世界の北海道」選定件数の趣旨は賛成だが、ネーミングを工夫して欲しい。また、これをどう北海道民に伝えるかがすごく重要。
- ・企業の経営者の方は、「どこで何が起きているのかは数字を見れば分かる」と仰るが、そのような感覚が数値目標ではなかなか表現しきれない。国の研究開発などでは、過度に数値目標等によってミクロな評価をしないという考え方も出てきており、数値目標に過度にとらわれない方がよいのではないか。
- ・北海道が3月に策定した第5期の北海道農業農村振興推進計画において、農業産出額とは算出に当たって使用する品目毎の単価が季節や収穫量の増減に影響されるので、農業生産量を、農業生産に関する道内関係者の共通の努力目標として設定している。北海道農業が持続的に、安定していくためには農業産出額を拡大していくことも当然重要なので、北海道としても農業の経営安定や生産性の向上などの取組を進めたい。
- ・数値目標については最近の状況を踏まえた妥当な数値であると評価する。しかし、数値目標が達成された場面を、誰も見たことがないので、例えば、目標の実現時の状況だとか、具体的なイメージが湧くような工夫が必要ではないかと思う。

《目標実現のための課題の抽出・共有》

- ・新しいことにチャレンジすると、利害の齟齬が発生する。それを克服する努力が必要。千葉県（印旛沼）では、うまくいくかどうか分からないが、とにかく前に進めてみようという見試（みためし）計画という取組を行っている。ともかくやってみようよ、できることならなるべく応援するよという姿勢で進めていくべきではないか。
- ・洪水災害に関して、中小河川の樹木管理が課題であるが、伐採した木はバイオマスとして活かせば多少なりともビジネスになると思うので、地域と一緒に進んで、伐採方法や伐採木の活用方法について考えて欲しい。
- ・道央に観光客が集中するというのは宿命で、それを前提とした上で、2度目、3度目、長期滞在者をどれだけ速やかに地方部に誘導していくかということに、手腕が問われると思う。
- ・観光客を呼ぶ時の供給制約の一番の要因として、宿泊がないということが挙げられる。従業員が足りない、宿泊の事業者の経営者自体も足りないといったような状況が目に見えてきている。雇用について、サブの指標でも見ていく必要があるのではないか。
- ・観光に関して言うと、ソフト面も重要だが、ハード面が非常に大切だと思う。雪に強い空港、大型船対応の港、LCC、道路の強靱化などが大切。

- ・観光も農業も食産業もとにかく人手不足。通年で雇用できる仕組みを地域を挙げて考えないとなかなか人を呼び込めない。
- ・農業や食が輸出を含めて頑張る時に、物流の問題をどうクリアしていくかは、非常に重要だと思う。
- ・木質バイオマスは、燃料として非常に価値があり、下川町などの先進的な取組もあるので、再生エネルギーの中に説明を加えて欲しい。
- ・観光について、情報の発信・拡散の世界トレンドを考えた時にインターネット、SNSは外せない。現状を見据えた方向やシステムの選択を十分に検討して欲しい。
- ・元気になれば、こんな北海道が生まれる、ただそのためには自分たちが頑張らないといけないという競争的な含みを持たせておいた方がよいのではないかな。
- ・北海道以外とは違う、北海道型のコンパクト+ネットワークで地域づくりを行っていくというメッセージが必要ではないか。
- ・計画を推進していく時に、北海道開発局の各開発建設部の取組とどう連動していくのか、メッセージのようなものを入れておいた方がよいと思う。
- ・観光を考える時、日本に来ていただいた外国人への対処という観点で考えがちだが、帰国後に今回の旅行はどうであったかという印象を聞いて対応に活かしていくことも大切。
- ・食を計画の重点に取り上げたことに感謝。農業も労働力の確保が大変、IT農業への期待は非常に大きい。しかし、光ファイバー等の（世帯）カバー率は90%を超えているが、農村部では通じないエリアが多い。農家の若い人は情報過疎に住んでいると感じ、将来はないと思っている人もいる。
- ・課題の進捗管理を行うとともに、新たな課題を共有することは大切。
- ・物流がどうあるべきか考えていくことは、観光、農業にとってとても重要。
- ・計画策定以降、時代の環境変化で様々な出来事がある中で、計画の大きな目標をどう達成するのか、それが本来の総合開発計画の推進ではないかと思う。様々な時代環境の変化や現下の課題をしっかりと見据えながら、機動的な推進をお願いしたい。
- ・生産空間の維持・発展は、総合開発計画推進の非常に大事な部分。モデル的な圏域での展開を是非、進めて欲しい。その際、開発建設部の地域振興対策室の活用など開発行政の持ち味・特性を活かしていく視点が大事である。

- ・地方の観光戦略により生産空間の活力を図るといった体系的な図式があると、生産空間における取組がより強いものになっていくのではないかと。
- ・北海道開発局が進めている屋根付き岸壁や清浄海水施設等の整備とあわせ、漁協や自治体が行き届く背後の荷捌場や冷凍冷蔵施設が一体となって高度衛生管理が実現する。これらの取組政策を一体的に推進する必要があると思う。
- ・現状をしっかりと整理するため、北海道開発局でも様々な調査をしていると思うが、それ以外にも表に出てこない地域の取組がある。このような取組の情報共有に協力することで、輸出が少しでも増え、北海道の付加価値を高めることができると考える。
- ・「生産空間」は全国に通用する大事な概念であり、モデル的な圏域として多様な地域を選定して取り組んで欲しい。
- ・「世界水準の観光地」と書くと、平均値的なものが何でも揃ってないとダメだとなり難しくなる。逆に、そこだけのものや最高のものという観点をお願いしたい。
- ・国を挙げて観光立国ということでやっているが、インフラとの連動があまりうまくいってないという印象があるので、北海道から観光地の道づくりのようなことを発信していただければありがたい。
- ・生産空間を支えるインフラとしての道路ネットワークは本当に大事だが、メンテナンスでは市町村道は相当厳しい現状にある。道路協力団体の活用など地域と協働していくことが大事である。
- ・地域のバス路線網が細くなってきており、貨客混載や自動運転を推進していくべき。その際、拠点としての道の駅との連携性をどう担保していくかということが大事である。
- ・北海道の一人当たりのCO₂排出量が多いとあるが、山林などが吸収する一人当たりのCO₂の量は本州とは比較にならないことに留意すべき。森や山を元気にする、木材を有効に使うということが生産空間の維持・発展につながる。
- ・大水力を含めると再生可能エネルギーの8割方が水力発電だと思われるため、更なる活用に向け、ダムのかさ上げ等についても前向きに検討して欲しい。
- ・宿泊業が元気になることが世界水準の観光なのではなくて、宿泊してもらいつつ、地域において様々な活動とつながっていくことが重要と思う。季節間較差の縮小や宿泊数の増加のためには、宿泊業と地域の取組の民民連携が必要で、結果として数値目標があると思う。
- ・圏域の検討に当たっては、自治体や地域の関係者だけでは解決できないこともあるので、全道的・全国的な観点から進めていくことが必要。また、「交通」や「産業」などとともに、「教育」の観点も地域の中で考えて頂きたい。

- ・プラットフォームやパートナーシップ会議をどう機能させるかということが重要だと思うので、どういう事業に結びつけていくか等、効果も考えて欲しいと思う。
- ・北海道は広域分散型の地域構造であり、それぞれの拠点にそれぞれの個性があるので、その個性、特性を活かすということと、地域の自主性が損なわれないような配慮が必要と感じる。また、地域間に競争を促すとともに、海外等の視点で、新たな魅力のある資源の発掘が必要になると思う。
- ・JR問題を中心とする地域の公共交通の問題が顕在化していることに加え、8月の台風で多くの交通網が寸断されたことを踏まえると、交通に関しては、代替性、補完性、持続性に着目してネットワークを形成することが極めて重要。
- ・取組を推進するに当たって、環境の変化や新たな弊害の顕在化等にも留意する必要があると思う。
- ・「世界の北海道」や「世界水準の価値創造空間の形成」は、新計画の目指すべき姿をイメージした言葉であり、計画策定時に共通認識があったと思うが、しっかりしたイメージを皆が持つことが大事であると思う。

《計画の進行管理》

- ・計画を進めるに当たり、委員が分野ごとに議論に加わり、進行状況を前向きにかつ厳しくチェックする仕組みをつくることを提案したい。
- ・取組の体系図は、アウトプットとアウトカムの両者を全体で見渡すことができ、分かりやすい。チェック機能を効果的に行うデータをしっかりと取りためて、PDCAがしっかりと回り、アウトカムが実現されることを願う。
- ・札幌一極集中が懸念される中、稚内とか道東などに光が当たるというところを見せることが重要ではないか。
- ・取組の体系図を描くことにより、事業間連携をとりながら進めていくことが示されたと思う。しかし、数値目標に行き着くプロセスが重要であり、数値目標の裏にある考え方も含めブレイクダウンしながら進めて欲しい。

(以上)

※ 速報のため、事後修正の可能性があります。(文責 事務局)